ワールド・カフェで学ぶ
ファシリテーションスキルの実践報告

桒子　研
池末　和幸
金井　圭太郎

1．はじめに

ファシリテーションとは、会議、ミーティング等の場で、発言や参加を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりする行為で介入し、合意形成や相互理解をサポートすることにより、組織や参加者の活性化、協働を促進させる手法・技術・行為の総称（Wikipedia）です。このような力のつく活動が、ワールド・カフェ形式での話し合いです。

ワールド・カフェはアメリカのアニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスが発見した会議運営に関する手法で、「カフェ」のような開放的でリラックスした環境での会話を会議に活かそうという手法です。ワールドカフェの雰囲気は「楽しさ」「気楽さ」「温かさ」「開放感」「自由」「対等」「世界の広がり」などで言い表されます。実際に企業の研修や学校現場、またNPO団体の集会など様々な場で用いられています。

ワールドカフェの進行手法の根本には、「人間は会話する生き物である」という信念があります。参考文献『ワールドカフェをやろう！』（日本経済新聞社）から次の言葉を引用します。

> 分断の文化からつながりの文化へ
> 私達は、これまでスピードと効率を再優先にしてきた産業社会の仕組みの中で、一人ひとりが分断され、人と人とのつながりが希薄になってきていると強く感じています。職場においても地域コミュニティにおいても、人と人とのつながりを取り戻し、信頼関係と協力関係を築いていくことが求められています。

ワールド・カフェには初めての参加者同士でも、すぐに打ち解けた雰囲気の中で会話が弾み、協力関係を向上させることができ、今後の社会で生きていく上で役立つと考えられます。ワールド・カフェには話し合いをしやすいようにするという、様々な仕掛けがあります。

1　1つのグループは4人で組む

4人という数字が絶妙です。ワールド・カフェでは必ず4人以下にします。4人で班を組むと必ず全員が話をしなければいけない状態になり、見ているだけの人がいなくなります。傍観者がいなくなり、全員が当事者になれるというテクニックの一つです。

2　トーキングオブジェクトの利用

トーキングオブジェクトという、おもちゃのマイクを用意します。そして次のようなルールに従って発言をします。

・話すときは必ずマイクを持つ。
・話し終わったらマイクは机の中央に置く。

こうすることによって、マイクを持っている人は“話す”という役割が、他の人は“聞く”という役割分担が自然にできます。また一人の人がマイクを持ちすぎていると目立ちます。単純に、「一人の人が話し過ぎないように！」という注意をするよりも、マイクを持っている姿が見えるようになるため、長く話しすぎると不自然な感じをうけます。また口下手な人でも、マイクを持つことで話をしやすくなります。

3　模造紙を机に置く・カラフルなペンを置く

模造紙を机の上にあらかじめ広げておきます。その模造紙には自由に今考えていることを書いても良いというのがルールです。相手が書いたことに対して、自分が思ったことを矢印などを使って、図解的に書くと良いという指示を出しておきます。カラフルなペンを用意して行うと、創造性を刺激され、様々なことを書き始めるようになります。

4　ポストイットを置く

ポストイットを置いておきます。これは自分用のメモを書くためのものです。模造紙と違うところは、このメモは公開しなくてもよいということです。もちろん模造紙に貼っておいて、公開してもかまいません。あとで説明する、グループ移動のときに、新しいグループに話し合いの内容を伝えるときのためにも、ポストイットにメモを書いておくことは大切です。

5　運営者が手をあげたら、話をやめて静かにする

グループワークの制限時間がきたら、「話し合い終わり！ 静かにしてください！」という指示をするのではなく、運営者が無言で手をあげます。その様子を見た人が、話しを止めて手をあげていきます。こうすると、ポツポツと気がついた人が次々手をあげていき、自然と静かになるばかりではなく、会場全体に一体感が生まれていきます。

6　お菓子・飲み物・お花を置く

このテクニックは、なぜそのようなことをするのか？と思う人もいるかもしれません。しかし、初めての人と話をしやすくなるという心理的な効果があります。あなたは招かれているという感じを受け、リラックスさせ話しやすくなる場を作れるからです。細かいテクニックですが、ワールドカフェの特徴はこのような話しやすい環境づくりにあるといえます。

7　会場をうろうろと歩く

運営者はうろうろと歩きながら話をしています。このように話をすると、聞き手は集中せざるを得ません。またグループワークの様子をみながら、運営者も参加したり、進み具合を気にかけて声をかけたりしていきます。

2．授業の流れ

今回の特別授業は、高校３年生進路決定者に対して行いました。題材はプロジェクトアドベンチャーで用いられる「卵を守れ」というワークを使うことにしました。ワールドカフェと普通の会議や話し合いなどの進め方との違いを比較しながら、ワールドカフェの立ち位置について見て行きたいと思います。

第一ラウンド　テーマについてグループで話し合う：20分～30分
第二ラウンド　新しいグループで話し合う：20分～30分
第三ラウンド　元のグループに戻って気付きの共有：20分～30分

第四ラウンド　全体でのアイデアの統合：20分～30分
　それぞれについて、流れにそって説明します。
0　事前にワールド・カフェについて説明をする
　トーキングオブジェクト、ポスター用紙、付箋などの道具の説明もしておきましょう。ネームカードに呼ばれたい呼び名を各自が書きます。
1　ホストを決める
　グループの中での司会者となるホストを決めます。
2　１分間で自己紹介をする
　呼んで欲しい名前をいいながら、１分と時間を決めて自己紹介をしていきます。
3　第一ラウンド　テーマについてグループで話し合う：20分～30分
　実際にテーマについて話し合いを行います。
4　第二ラウンド　新しいグループで話し合う：20分～30分
　ホスト以外の人は第一ラウンドが終わり次第、テーブルチェンジします。
5　第三ラウンド　元のグループに戻って気付きの共有：20分～30分
　元のグループに再度もどって、新しいグループでどのような意見がでてきたのか、どんな話し合いになったのかを共有していきます。
6　第四ラウンド　全体でのアイデアの統合：20分～30分

　タイムテーブルは以下のとおりです。
10時35分　出席および移動
10時40分　趣旨説明
・今回の講座は、コミュニケーションをどのようにとって他者と協力をしていくかということを考えるための学習活動である。
・話し合いの手法として、ワールド・カフェという手法をとる。どんなものかは体験をして感じてほしい。
・対話がメインになるので、あまり話したことがない生徒どうしでも積極的にコミュニケーションをとってほしい。
・お互いの考え方の違いを楽しんでほしい。相手の意見を否定することは禁止とする。
・いろいろな会話を促進するための工夫が隠されている。参加をするなかで、どのような手法が使われているのかを感じてほしい。
10時40分：４人ずつ席に座ってもらい、テーブルホストの選定をする（選定は「一番髪が長い生徒」と指示を出しました。リーダー以外の生徒は、近くに友人がいない席へと移動をしてもらう。

10時45分　ワールドカフェスタート

・テーマについての発表（卵を守れ！）ルールの説明

・道具の説明。トーキングオブジェクト、ポスター用紙、付箋の説明。

・テーブルホストから順番に時計回りに自己紹介を行う。自分の名前＋大学に入ってからやりたいことなど

○　１人１分（10秒などで終わらないように！）、４分で終わり。４分後に無言で手をあげる。

○　気がついた班はどんどん無言で手をあげていく。全員上がったら次に進む。

○　だいたい１人１分を班で考えて、１人おわったら拍手、を繰り返す、名前などメモをとってもかまわない。

○　早く終わってしまった班はテーブルホストが適当に話題をふる（他に言い足りなかったことはありませんか？など）。

○　話をするときには、トーキングオブジェクトをしっかり使うように指示。

10時50分～11時10分　話し合い

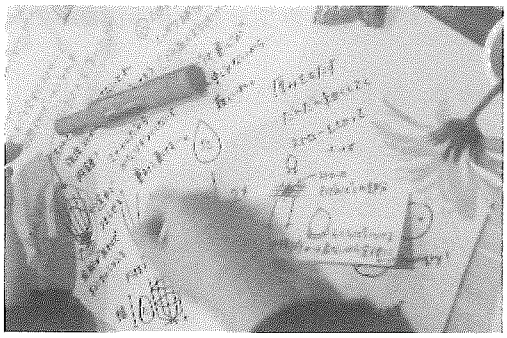
・ストローと卵をもっていってもらう（セロテープは後で配布）

・ポストイットを使ってアイデア出しを行う。一人１個以上のアイデアを出して（３分をとる）、それぞれ発表をしていく。

・テーブルホストが運営をする。

・20分与えるので各自自由に話し合い。完成予想の設計図を書いてもらう。

・自分たちのつくろうとしている装置に名前とサブタイトルをつけてもらう。サブタイトルは「機能がわかるもの」。



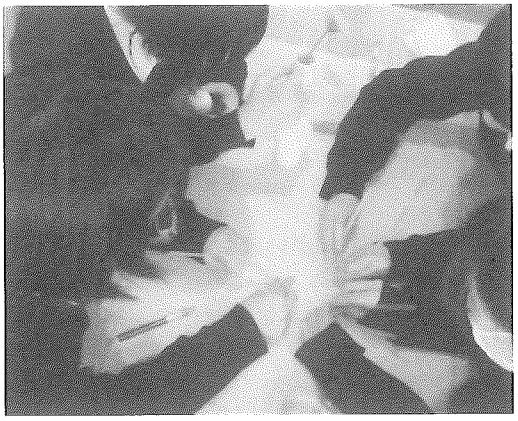
11時10分～45分　装置の作成

・装置の作成スタート

・誰も何もしていない状況を作らないように指示。テーブルホストが役割を決めていく。

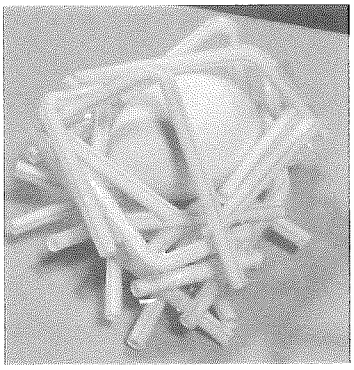
・11時30分ころ、テーブルホスト以外は立ち上がり、自分の班がいないテーブルへと移動する。

・各テーブルで作った装置の偵察をする。テーブルホストは集まった人に対して、どのような工夫を考えているかを説明。



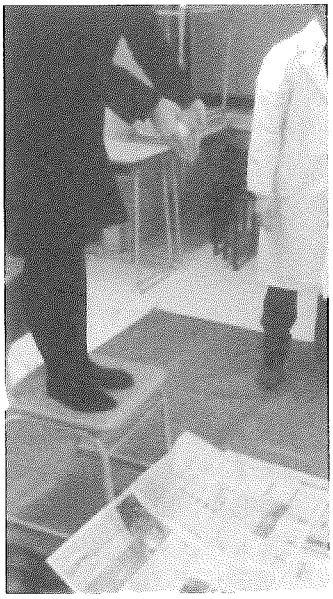
アイデアをだしていく

作りながら実験



完成

12時50分　会議室で実践
　卵を実際に落としていく。



椅子に立って卵を落とす

12時15分　アンケートへの記入

・帰ってきてアンケート用紙に記入。

・ワールドカフェの中にどんなコミュニケーションの促進のテクニックがあったのかを話し合う。

3．アンケート結果より

Q　6年間をすごして、今日はじめて向き合って話をした人がいましたか？

いた　32名　いない　7名

Q　この講座を受けた満足度を教えて下さい。（5段階で5が一番上）

1～3：0名　4：8名　5：31名

Q　自由記入欄より

・それぞれが異なった意見をもち、大変だが、良いところをつまんであわせ、総合的に班の人たちが納得できる良い作品ができあがるなと思った。

・自分の意見を言えるようになっていました。

・卵が割れてしまって悔しかった。みんなで話し合ったから、卵を割らないように、という単純なことが楽しかった。

・中学の時同じクラスでもほとんど会話してなかった人とも一緒にお話ができてよかったです。

・いろんな考えを出しあうのがとても楽しかった。

・普段の授業では使わない脳をつかった気がする。

・グループのメンバーの数だけちがう意見があった。

・他者と自分では物事の見方がまったく異なることがわかりました。

・絆が深まった。

・人と話をするときは目を見ることが大切。

・自分が思っていることとちがうことを相手が考えていても、しっかりきくととてもいいアイデアだったので、きくのは大切だと思った。自分のことはいう内容をいかに論理的に説明できるかがムズカシイけど、自分でも気づくことがあって楽しかった。

・同じ目標をもって話し合うと盛り上がる。

・自分の説明のへたさ。絵も書けないので苦戦した。皆考えることが違ったり、一人で色々な意見を言える人などがいた。

・こんなに卵について話し合ったことはなかったので楽しかった。

4．まとめ

生徒の様子やアンケート結果を見ると、自分の考えていることと、相手の考えていることの違いについて知って驚き、またその違いを楽しんでいたことが印象的です。これはワールドカフェの手法の特徴であると思いますが、参加者自身が主役となり、あらかじめ教師が用意した答え、ゴール地点は無いということが関係しているのではないかと考えます。生徒に不足していると言われているコミュニケーション能力は、教えるということも必要ですが、生徒自身が積極的に相手に思いを伝えようと思ったときこそ、大きく育つものなのかと感じました。

また教師（主催者）は「場を作ること」に徹し、参加者である生徒がいかに話しやすくなるのかを、道具やワールドカフェのルールに従って進めていきます。これらの手法は、

決して高度なテクニックではなく、どんな人でも取り入れることができるのも特徴です。今後アクティブラーニングを推進していく上でも、大きなヒントになるのではないかと感じています。